

令和5年度タンチョウ保護増殖検討会

議事概要

■日時：令和5年2月21日（月）14：00～16：30

■実施体制：釧路市交流プラザさいわい 大ホール（オンライン併用）

■出席者一覧：

<保護増殖検討委員>（敬称略、五十音順）

赤坂卓美	帯広畜産大学 助教
小川巖	エコ・ネットワーク 代表
黒澤信道	公益財団法人 日本野鳥の会 釧路支部 支部長
正富宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授
松本文雄	日本ツル・コウノトリネットワーク 事務局長
吉野智生	釧路市動物園 専門員

（ご欠席）

百瀬邦和	NPO 法人 タンチョウ保護研究グループ 理事長
------	--------------------------

<関係機関・オブザーバー>

北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道森林管理局計画保全部計画課、根釧西部森林管理署、根釧東部森林管理署、北海道環境生活部自然環境局自然環境課、北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課、北海道根室振興局保健環境部環境生活課、釧路市環境部環境保全課、釧路市阿寒町行政センター市民課、釧路市音別町行政センター市民課、釧路市動物園、阿寒国際ツルセンター、長沼町政策推進課、浜頓別町産業振興課、むかわ町総合政策課、鶴居村産業振興課、鶴居村教育委員会、公益財団法人日本野鳥の会、公益財団法人日本鳥類保護連盟、一般社団法人タンチョウ研究所、特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ、特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク、鶴居村タンチョウ愛護会、ネイチャー研究会 in むかわ、北海道大学大学院文学研究院、東京大学大学院農学生命科学研究科

<事務局>

環境省北海道地方環境事務所、釧路自然環境事務所

■議事概要：

議題 1. タンチョウ保護増殖事業実施結果について

(1) 令和 4・5 年度タンチョウ保護増殖事業実施結果

環境省から、令和 4・5 年度タンチョウ保護増殖事業実施結果（資料 1）に関して、給餌に係る購入量及び給餌量、環境省委託給餌場における飛来カウント数推移、環境省委託給餌場における給餌量と飛来数推移、タンチョウ越冬分布調査の結果について、タンチョウ取組評価（越冬及び標識調査）業務、標本保存管理業務・傷病収容状況、環境省給餌場における HPAI 対応方針の検討について、道北・道央におけるタンチョウ繁殖状況調査について説明した。

<意見・質問>

- ・ （委員）タンチョウについては分散が非常に重要視されているが、環境省では具体的に来年度分散の対策について何をするかを決定しているのか。
 - （環境省）来年度は、タンチョウの分散に向けた給餌量調整の節目の年であることから、今後の給餌方針を検討するための関係者との議論の場を設ける。
 - （環境省）タンチョウの分散化は道央圏が重要となる。外来種対策や市町村との調整など十分にコミュニケーションをとって実施していきたい。
- ・ （委員）給餌場における個体数の変化等を調査の結果をどのように考察して、活用していくのか。
 - （環境省）継続してモニタリングを行っている段階で、詳しい考察や解析まではしていない。しかし、令和 6 年度の給餌量の調整の方針を考え直す際には、これまでの結果を活用して、給餌量を検討したい。（黒澤委員） 1－8 の道央地域における状況について、つがいの分布と越冬の分布しか出ていないが、道央地域における個体数の大まかな様子がわかるのならば、教えてほしい。
 - （環境省）道央も個体数が少しずつ増えているが、特に顕著なのが道北で、個体数が順調に伸びつつある。毎年度、つがい数と飛来個体数が道北では順調に増えている。
- ・ （委員）3 ページの「えりも町のつがい以外は概ね道央地域で越冬」について記載が不明瞭。
 - （環境省）3 ページの「えりも町のつがい以外は～」については、道東に帰らず道央近辺で越冬している個体のことを説明しており、えりも町のつがいは道東に帰ったことを示す。
 - （タンチョウ研究所）えりも町の繁殖つがいは広尾町や大樹町の方で越冬して、越冬地が道東なので別枠になる。それ以外に道央圏で繁殖が確認されているつがいに関しては、今年度も今のところ道央圏の日高町、新冠町あたりまでで全て確認されている。
 - （委員）夏に繁殖していない個体を含めた全容がわかるのであれば、今後は教えてほしい。

(2) 令和4年度北海道タンチョウ給餌事業について

北海道環境生活部自然環境局から、令和4年度北海道タンチョウ給餌事業（資料2）について説明した。

<意見・質問>

- ・（委員）令和4年度の事業と調査の結果についての説明をうけたが、今の段階で今年度の報告はないのか。
→（北海道庁）給餌に関しては、実施中で結果がまとまっている状況ではない。正式に取りまとめた数値は出てないが、暫定的な状況として、昨年度より若干数が多い。
- ・（委員）環境省は給餌量の削減を行っているが、道はどのような対応をしているのか。
→（北海道庁）現状では環境省の給餌場の一羽あたりの給餌量を下回っている状況なので、道としては削減を行っていない。

(3) 令和5年度タンチョウ保護増殖事業計画・タンチョウ保護収容状況調査の結果について

釧路市動物園から令和5年度タンチョウ保護増殖事業計画（資料3-1）、について（資料3-2）、参考資料の日本野生動物医学会大会発表ポスターについて説明した。

<意見・質問>

- ・（委員）タンチョウの交通事故について、交通事故があった際に国道なのか農道なのか、1車線なのか2車線なのか、あるいは車がトラックなのかバスなのか、というような事故時の条件も詳しく調べておくと、有効なのではないか。
→（釧路市動物園）今年度と来年度で、さらに対応を進めていくことを考えている。地元の方だけではなく、観光客やインバウンドでレンタカーを運転する方など、さまざまな方に向けての普及啓発が必要だろうと考えている。
- ・（委員）現在の個体数は1800羽から1900羽前後で、数年間続いていることから、個体数が増えないのは、交通事故の増大による可能性もある。

(4) 令和5年度タンチョウ保護に関わる事業実施状況および令和6年度の実施計画について

北海道開発局から令和5年度タンチョウ保護に関わる事業実施状況および令和6年度の実施計画（資料4）について説明した。

(5) 令和4年度保護林巡視実施状況及び令和5年度実施予定

北海道森林管理局から令和4年度保護林巡視実施状況及び令和5年度実施予定（資料5）について説明した。

議題 2. 関係者・研究機関からの報告

(1) 鶴居村からの報告

鶴居村から資料6について説明した。

<主な意見・質問>

- ・ (委員) 資料から大給餌場から周辺の農家に移動しているわけではない可能性も読み取れるが、どのように捉えられているのか。
→ (鶴居村) 鶴見台サンクチュアリがある地域以外の農家にも聞き取りをしており、単純に鶴見台サンクチュアリとの羽数と因果関係がない地域もあると考えている。
- ・ (委員) 農家へのアンケートに関して何軒に配布して、どれだけ回答が得られたか知りたい。
→ (鶴居村) 農家が営農計画で農協に来る際に回答してもらっており、ほぼ100%の回収率となっている。
- ・ (委員) 資料をみると給餌量を減らしても、タンチョウは鶴居村からは出て行っていないことになっているが、どのように考えているのか。
→ (鶴居村) 給餌場では給餌量の削減をしているものの、最終的な羽数には大きな変化は今のところない。給餌量は令和3年度から令和5年度まで据え置きで行っている。給餌量を減らすという方法だけではなく、撒き方を変えるなど色々な方法で試行し、タンチョウの集中時間を短くすることを考えている。

(2) 日本野鳥の会からの報告

日本野鳥の会から資料7について説明した。

(3) NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワークからの報告

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワークから資料8について説明した。

(4) 長沼町からの報告

長沼町から資料9について説明した。

(5) ネイチャー研究会 in むかわからの報告

ネイチャー研究会 in むかわから資料10について説明した。

議題 3. 令和 6 年度実施予定事業について

環境省から令和 6 年度環境省実施予定事業（資料 1 1）について説明した。

<意見・質問>

- ・（委員）鳥インフルエンザについての議論はしなくてよいのか。給餌場に集まるカモ類・猛禽類・カラス、などの他の野鳥の鳥インフルエンザの感染例について、どれくらいあるのか、そしてその対応について教えてほしい。
→（環境省）少なくとも 2 年間は給餌場で鳥インフルエンザにかかった野鳥がいるという事例は確認されていない。
- ・（委員）環境省の連絡先が不明瞭で、休日や夜間でも連絡してよいかわからない。
→（環境省）傷病個体の発見の通報は、土日でも当番の携帯電話に連絡が来るようになっている。ただ、連絡先が行き届いていない自治体もあるので周知していきたい。
- ・（委員）道の給餌場を今後どのようにするのかは、タンチョウの分散化にも関わる大きな問題。環境省と道で検討をお願いしたい。
- ・（委員）鳥インフルエンザの対応マニュアルの作成に係わったが、関係する自治体の対応が重要と感じた。環境省の予算だけではなく、他からの資金の調達方法も含め、来年度はより具体的な対策を各自自治体と進めてほしい。
- ・（委員）鳥インフルエンザの問題は、タンチョウの分散化をするための根本の問題であるため、もっと基本に立ち返り議論をするべき。
→（環境省）昨年秋に策定をした分散行動計画改定版においても、鳥インフルエンザ対応も含めた給餌に頼らない分散方法の検討について記載している。実施計画では令和 5 年度から令和 9 年度の間で検討するとしており、ご指摘をふまえ次年度以降の検討を行えればと考えている。
- ・（委員）越冬数の調査は正確な数をおさえるのが難しくなっている。分散傾向の把握に重視するなど、方法を検討してもよいのではないか。
→（環境省）調査は予算・体制の面である程度の制約の中で実施しなくてはならず、道と全数を把握する調査の目的について協議する必要がある。
- ・（委員）本検討会は今まで秋に行っていたのに、なぜ 3 月に移動したのか。タンチョウの越冬期や繁殖期の話ができる秋に戻した方がよいのではないか。